

## 英米文学科主催 講演会のお知らせ

久野陽一教授が担当される「イギリス文化特講 II」において、ゲストスピーカーをお招きして講演会を実施します。受講生以外の学内・学外の方の参加も歓迎いたします。事前の予約や参加費は必要ありません。皆様のご参加をお待ちしております。

**題 目：** カリブ海とアフリカの移民から読み解く UK ジャズのムーブメント

**講演者：** 柳樂 光隆 (Jazz The New Chapter)

**日 時：** 2023 年 12 月 7 日 (木) 5 限 (16:50-18:20)

**場 所：** 17 号館 3 階 17308 教室

### 講演内容：

イギリスのマーキュリー・プライズは、アメリカのグラミー賞ほどではないですが、受賞アーティストが世界的な注目を集める音楽賞です。アークティック・モンキーズやジェームス・ブレイク、リトル・シムズやスケプタも受賞しているように、まさにその年のイギリスを代表するアーティストに贈られる賞ですが、2023 年の受賞者はなんとジャズのグループでした。その名前はエズラ・コレクティヴ。イギリス在住 20 代の若者たちによるグループで、その音楽性はジャズを中心としつつも、イギリス独自の様々な音楽要素に加え、カリブ海やアフリカなどに由来する要素も含まれていて、とても多様なサウンドであることも受賞の理由になっていました。実は 2010 年代末以降、イギリスではエズラ・コレクティヴ同様に多様なサウンドを奏でるジャズ・ミュージシャンたちがどんどん頭角を現していて、イギリスのみならず世界的に大きな注目を集める状況が続いています。この 10 年、イギリスのジャズは音楽シーンにおける熱いトピックと言っているものになっています。

とはいえ、イギリスでのジャズは長い間、スポットライトが当たるような音楽ジャンルではありませんでした。どちらかというところ、ジャズに関してイギリスは後進国とさえ思われていました。そんなイギリスのジャズがなぜマーキュリー・プライズを受賞するまでに発展したのか、その過程を知ることはイギリスという国の文化の在り方が大きく関わっています。

この講義では現在のイギリスのジャズの状況と、それを可能にした環境や歴史的な背景を解説することで、イギリスの文化について学んでもらおうと思います。

### 講演者プロフィール：

1979 年、島根県・出雲生まれ。ジャズとその周辺の音楽を扱う音楽評論家。21 世紀以降のジャズをまとめた世界初のジャズ本『Jazz The New Chapter』シリーズ、マイルス・デイヴィスを現在の視点から読み解いた『Miles Reimagined』の監修を務める。共著に後藤雅洋、村井康司との鼎談集『100 年のジャズを聴く』などがある。『WIRED』日本版、『i-D JAPAN』『CD ジャーナル』『JAZZ JAPAN』『ミュージック・マガジン』『BRUTUS』『ユリイカ』などの雑誌にも寄稿。ジャズに留まらず、数多くのライナーノーツも手がけている。『Jazz The New Chapter』シリーズのコンピレーション CD などの選曲家としての仕事も多数。現在、鎌倉 FM「世界はジャズを求めている」(毎月第 3 木曜日)放送中。また、美学校、昭和音楽大学大学院などでも教鞭を執る。

お問い合わせ先：文学部英米文学科研究室